教育かわら版
こんにちは教育委員会です ふたたび

No.１５４
令和３年５月１３日発行
今金町教育委員会の会
文責：教育長　中山秀悦

教育委員リレーエッセイ

『顔なじみの校長先生』

今金町教育委員　　小野　嘉代子



春、新しい生活が始まる季節になると、子供の頃を思い出します。
新学期、「今年は転校してくる友達はいるのかな？」「今度はどんな先生が来るのかな？」と、ちょっとワクワクした気持ちになり、学校へ行くのが楽しみな日でした。
私が小・中学校とお世話になった担任の先生は、８人。今はどうされているのかはわかりませんが、一年に一度、先生方を思い出すこの季節は、気持ちが子供に戻ったような感じを覚えます。
ただ、失礼ながら校長先生の顔と名前は殆ど覚えておらず（すいません）、校長室で歴代校長の写真を見ても、ピンと来ません。
校長先生と言えば校長室にいる先生で、全校集会や行事など挨拶をしてくれる先生としか、印象に残っていないのです。
しかし、今の子供たちは校長先生の名前を憶えているだけでなく、普通に会話をしたり、良い意味で隔たりを感じさせない“顔なじみの校長先生”になっている印象を受けます。
20代の人に「小学校1年生の時の校長先生を覚えていますか？」と聞いてみたところ、はっきりと覚えており「当時ボールの使い方を校長先生が教えてくれた」など、まるで担任の先生のように覚えていました。
また、校長先生も子供たちのことを、よく覚えていて下さっています。
このような話を聞くと、とても素敵な関係♪とほっこり気分になります。
今は、“校長室にいる先生”より”顔なじみの校長先生“なんですね～



今できること

「できる限りの感染症対策で数値を下げて、卒業・入学・異動時期の人の流れに対処する。そしてワクチン接種を待つ」。そう２月・３月の会議で、踏ん張ろうと話してきました。
それでも夏休みの時期まではフルにはできないのじゃないか。そんな予想もしながら、イベント等の計画を練ってきました。
連休中も我慢して、家の近くにいました。娘の顔はかれこれもう１年半も見ていません･･･。
変異型と呼ばれるくらいですから、それまでより感染力は強いのでしょう。ワクチンが行き渡ることを望みながら、やっぱり踏ん張るしかない。

ただ、これまでは「どうやったらやれるか」を考えてきました。この先は『どこまでならやれるか』。そう判断の基準を変えていかねばならないと考えています。

１００％フルではできない。それは皆分かっている。あとは、どこまでなら安全と判断できるか。子どもたちを、町民の皆さんを笑顔にできるか。
リスク管理は must です。でもそこに、何もしない方が安全という発想はありません。それは「気が楽」というだけで、教育でも行政でもない。そう考えています。重たいけれど。
小学生が消防署見学に来ていました。中学校が修学旅行から戻りました。
全道的に感染者が増加してきました。本当の踏ん張り時が来ているのだと思います。
平たい言葉ですが、「頑張るしかない」のです。･････感染防止を諦めない。